

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：62601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24402049

研究課題名(和文)米英独における評価の高い歴史授業の収集・分析とそのデータベース化

研究課題名(英文)Collection and the analysis of the outstanding history lessons in U.S., U.K. and Germany

研究代表者

二井 正浩(Nii, Masahiro)

国立教育政策研究所・教育課程研究センター基礎研究部・総括研究官

研究者番号：20353378

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,600,000円

研究成果の概要(和文)：本調査を通じて、これまで日本の歴史教育研究で分析・検討されていた外国の歴史カリキュラム、教育プログラム等のいくつかについて、授業の事実に基づいた考察が可能となり、論文や学会等で諸報告がなされた。また、日本の歴史教育研究者および歴史教師が諸外国の実際の歴史授業に接することも容易になった。本調査で作成した資料は、Web等を通じて教育センターの講習会や大学の講義等で活用されつつある。本調査が、日本の歴史授業の「鎖国」的な状態を解消する端緒になることを期待したい。

研究成果の概要(英文)：Through this research, it has become possible to consider, based on the facts about lessons, a number of history curriculums and educational programmes that have been analysed and investigated in history education research in Japan up to the present time, and it has been reported multiple times, including in thesis and at academic conferences. It has also made it easier for Japanese history education researchers and history teachers to come into contact with the history lessons actually given in various other countries. The materials prepared for this research are being utilised via our website and other means by educational centers for workshops and by universities for lectures and so forth. It is hoped that this research will be the first step toward eliminating the state of "national isolation" of Japan's history lessons.

研究分野：歴史教育

キーワード：歴史教育 歴史授業 アメリカの歴史授業 イギリスの歴史授業 ドイツの歴史授業 米英独の歴史授業 諸外国の歴史授業

1. 研究開始当初の背景

社会科・地理歴史科・公民科教育研究では、諸外国のカリキュラムや教科書等に関する研究が活発に行われている。これらの研究は多くはカリキュラムや教科書等を分析・解釈し、日本の社会科・地理歴史科・公民科教育に一定の示唆を求めるものが一般的である。しかし、カリキュラムや教科書は授業の枠組みでしかない。もし、これらが授業実践のレベルにおいて有効に機能していなければ、それは絵に描いた餅を論じているにすぎない。にもかかわらず、諸外国の授業実践に着目した研究はほとんど見られない。

一方、国内では授業実践にもとづいた研究の重要性が再認識されるようになってきている。例えば、全国社会科教育学会では平成 19 年に『優れた社会科授業の基盤研究 小学校の“優れた社会科授業”の条件』『優れた社会科授業の基盤研究 中学校・高校の“優れた社会科授業”の条件』(明治図書)、日本社会科教育学会では平成 20 年に『社会科授業力の開発 小学校編』『社会科授業力の開発 中学校・高等学校編』(明治図書)、社会系教科教育学会では平成 22 年に『社会系教科教育研究のアプローチ～授業実践のフロムとフォー～』(学事出版)などが相次いで刊行された。これらは、それぞれ学会が学会員の総力を挙げてまとめたものであり、学会の原点に立ち返って授業実践を研究の対象に置き直そうとするものである。また、平成 23 年度の全国社会科教育学会のシンポジウムや歴史教育ラウンドテーブルでも、すぐれた実践に着目することの重要性が再認識された。本研究は、このような状況を鑑み、歴史授業実践の研究対象を国外に広げようとするものである。

2. 研究の目的

歴史教育研究では、諸外国の歴史教育カリキュラムや教科書に関する研究が活発に行われている。しかし、カリキュラムや教科書は現実の授業の枠組みでしかない。もし、これらが授業実践のレベルで機能していなければ、それは絵に描いた餅を論じているにすぎない。にもかかわらず、諸外国の授業実践に着目した研究はまず見られない。

このような問題意識から、本研究では、諸外国において、評価の高いカリキュラムや教科書にもとづいた授業実践、当該国内で評価の高い歴史授業者の授業実践、を記録・収集し、分析・評価を行なう。また、収集した授業実践は歴史教育研究の基礎資料として Web 上に公開する。

3. 研究の方法

本研究では、研究代表者・研究分担者を米・英・独の調査班に組織し、実施する。これらの調査班の連絡・調整、および全体会議の実施やデータベース・報告書の作成事務は、事務局として研究代表者が責任者となり実

施する。

1 年次から 3 年次の前半までに、米・英・独それぞれの調査班は、歴史授業実践の事例収集を行うこととし、2 年次後半からは、授業実践の分析・類型化、データベース化を行い、3 年次末には Web 上に公開するとともに、報告書を作成する。

4. 研究成果

本研究を通じて、これまで日本の歴史教育研究で分析・検討されていた外国の歴史カリキュラム、教育プログラム等のいくつかについて、授業の事実に基づいた考察が可能となり、論文や学会等で諸報告がなされた。また、日本の歴史教育研究者および歴史教師が諸外国の実際の歴史授業に接することも容易になった。

本研究で作成した資料は、Web 等を通じて教育センターの講習会や大学の講義等で活用されつつある。本研究が、日本の歴史授業の「鎖国」的な状態を解消する端緒になることを期待したい。

なお、報告書には 13 本、Web には現時点で 17 本の実践報告・分析が紹介されている。報告書に掲載した授業実践は以下の通り。

Ms. Valerie Ziegler ; “ Battle of Lexington ” (Abraham Lincoln High School , CA , USA , 第 11 学年)担当：原田智仁

Mr. Rick Rogers ; “ How does the past connect to the present? ” (Benton Park School , UK , 第 7 学年)担当：二井正浩

Mr. Andreas Slowig ; “ 青銅器時代 ” (Christian-Wolff-Gymnasium , SA , DE , 第 6 学年)担当：宇都宮明子

Dr. Werner Heil ; “ 中世と近現代ヨーロッパの思考 ” (Goeth-Gymnasium Ludwigsburg , BW , DE , 第 10 学年)担当：服部一秀

Ms. Sharon Cohen ; “ Struggles to Retain Old Identities ” (Springbrook High School , MD , USA , 第 11 学年)担当：二井正浩

Ms. Karen Kingston ; “ Hitler Rise to Power - From Democracy to Dictatorship ” (Our Lady Queen of Peace Catholic Engineering College School , UK , 第 9 学年)担当：中尾敏朗

Mr. Bruce Lesh ; “ ジム・クロウ法、未解放奴隷、ブルース ” (Franklin High School , MD , USA , 第 11 学年)担当：原田智仁

Mr. Nathan Schwartz ; “ Colonial Regions DBQ ” (Walter Johnson High School , MD , USA , 第 10 学年)担当：中尾敏朗

Mr. Julian Hipkins ; “ テロリズムとは何か。誰がテロリストか? ” (Capital City Public Charter School , DC , USA , 第 11 学年)担当：田中 伸

Mr. Ashyby ; “ Republicans and

Federalists”(Alisal High School ,CA ,
USA , 第 11 学年)担当：田尻信壹
Mr. Garry Bittenden ; “ いかだ作り ”
(Akaroa Area School , New Zealand , 第
10 学年)担当：二井正浩
Ms. Maria Heiter ; “ ポスターツアー ”
(Gesamtschule Duisburg-Süd , NRW , DE ,
第 13 学年)担当：宇都宮明子
Dr. Alan Singer ; “ 大恐慌期の労働組合
の発展 ” (Turtle Hook Middle School ,
NY , USA , 第 8 学年) 担当：原田智仁

その他にも、授業者からの掲載許諾を申請中
の授業記録や、授業採取の時期の関係で作成
中の授業記録なども多数ある。今後はこれら
の授業記録の Web 掲載作業を引き続き継続す
る。また、本調査は本年度で終了するが、こ
れからも様々な機会を通じて得られた評価
の高い諸外国の歴史授業実践の記録を Web に
追加掲載していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 7 件)

中尾敏朗 「中学校社会科実践研究の最
前線 & レア情報、日々の授業としての課
題追究学習～英国の歴史授業の実際～」
(明治図書『社会科教育』655 号 2013.11 ,
pp.128-129)

二井正浩 「グローバルヒストリー教育に
おけるナショナルアイデンティティの
扱いに関する質的研究 - World History
for Us All における単元 New
Identities: Nationalism and Religion
1850-1914CE の実践を通して - 」(日本社
会科教育学会編『社会科教育研究』第 121
号 , 2013.12 , pp.10-21)

原田智仁 「ケーススタディを活用した世界
史教育に内容編成論 - 米国の中等教科
書『世界史：相互作用の諸形態』の分析
を手がかりに - 」(『兵庫教育大学研究紀
要』第 44 巻 , 2014.2 , pp.183-193)

宇都宮明子 「歴史授業における知の生成
過程に着目した授業デザインの考察 -
談話分析の手法を用いたドイツ歴史授
業の分析を基に - 」(日本社会科教育学
会編『社会科教育研究』第 121 号 2014.3 ,
pp.65-77)

原田智仁 「米英における歴史的思考の評
価の論理と方法」(『社会科における「思
考・判断・表現」の評価に関する研究』
日本教材文化研究財団調査研究 No.61 ,
pp.174-184 , 2014.9)

原田智仁 「米国における “ 歴史家のように
読む ” 教授方略の事例研究 - ジーグラ
ー氏の「レキシントンの戦い」の授業分
析を手がかりに - 」(『兵庫教育大学研究
紀要』第 46 巻 , 2015.2 , pp.63-73)

服部一秀 「前期中等歴史教育における
歴史映画分析学習のための授業構成 -
ベルリンにおける歴史授業「映画の中

のナチズム」の場合 - 」(山梨大学教育
人間科学部附属教育実践総合センター
『教育実践学研究』第 20 巻 , 2015.3 ,
pp.79-94)

〔学会発表〕(計 5 件)

宇都宮明子 「歴史授業における知の生成
過程に着目した授業デザインの考察 -
談話分析の手法を用いて - 」(日本教科
教育学会第 39 回全国大会 , 岡山大学 ,
2013.11)

服部一秀 「中等歴史教育における歴史映
画の分析学習 - ベルリンの授業事例 - 」
(全国社会科教育学会第 63 回全国研究
大会 , 愛媛大学 , 2014.11)

中尾敏朗・二井正浩 「英国における課題
解決型の歴史授業の方略」(社会系教科
教育学会第 26 回研究発表大会 , 兵庫
教育大学 , 2015.2)

原田智仁 「米国における “ 歴史家のように
読む ” 教授方略の事例研究」(社会系
教科教育学会第 26 回研究発表大会 , 兵
庫教育大学 , 2015.2)

宇都宮明子 「思考力・判断力・表現力を
育成する小学校歴史学習の考察」(社会
系教科教育学会第 26 回研究発表大会 ,
兵庫教育大学 , 2015.2)

〔その他〕

ホームページ作成

http://www.nier.go.jp/history_lessons/

6. 研究組織

(1) 研究代表者

二井正浩 (国立教育政策研究所教育課程
研究センター基礎研究部 総括研究官)
研究者番号：20353378

(2) 研究分担者

宇都宮明子 (佐賀大学文化教育学部 准
教授)

研究者番号：40611546

桐谷正信 (埼玉大学教育学部 教授)

研究者番号：90302504

田尻信壹 (目白大学人間学部児童教育学
科 教授)

研究者番号：10436800

田中 伸 (岐阜大学教育学部 准教授)

研究者番号：70508465

中尾敏朗 (文部科学省初等中等教育局
視学官)

研究者番号：20413908

服部一秀 (山梨大学大学院教育学研究科
教授)

研究者番号：60238029

原田智仁 (兵庫教育大学大学院 学校教
育研究科 教授)

研究者番号：90228651

(3) 連携研究者

小川正人（インディアナ大学ココモ校教育学部 准教授）
Gary.B.Nash（U C L A 教授）
Gary.M.Mukai（スタンフォード大学教授）
伊東彩子（Central Foundation Girls School の教師）
Anthony Haynes（The Professional & Higher Partnership のコンサルタント）
Ian Davies（ヨーク大学教育学部教授）
Michael Sauer（ゲッティンゲン大学教育学部 教授）
Ana Brandenburg（Luisen-Gymnasium の教師）